

相馬市でのWBCによる被ばく検診結果(4)

結果概要

平成26年3月28日

- 1 検査時期：平成25年4月1日から平成26年1月31日まで
- 2 受診者：相馬市民 6,981人（大人 4,398人、子供 2,583人）
- 3 検査機器：キャンベラ社製ホールボディカウンター（相馬中央病院、公立相馬総合病院）を使用し、セシウム134及び137に由来する放射線を測定しました。機器の測定検出限界は、約4 Bq/kg（250Bq/body）です。
今回の結果は、相馬中央病院及び公立相馬総合病院での測定結果をまとめて集計しています。小児の集計には、平成25年9月から12月に行われた学校検診での検査結果も含めています。
- 4 検査結果の説明
 - 図1-1及び1-2：今回の測定で放射性セシウムが検出された方の割合は、成人及び高校生で1.5%（平成24年6月11日～平成25年3月31日までの期間は4.2%）、20Bq/kg以上を検出した方は、2名でした。一方、小児では、2,583名中1人で4.61Bq/kgが観測されましたが、残りの方は検出限界以下で、20Bq/kg以上の方はいませんでした。
 - 図2：体内に放射性セシウムが観測される方の頻度は、大人及び子供ともに事故後の時間が経つにつれて低下し、大人では、平成25年5月以降2%以下と極めて低い水準を保っており、小児は、0.5%未満と大人より更に低い基準を保っています。
 - 図3-1及び3-2：年齢別では、高齢者ほど放射性セシウムの検出率が高く、男女別では男性における検出率が高くなります。食生活の違い及び体内に取り込んだ放射性セシウムの排泄速度（生物学的半減期）の差などが影響していると考えられます。
 - 図4-1、4-2及び4-3：アンケートの結果、相馬市民の食材や環境を介した内部被ばく増加に関する不安は低下する傾向にあります。
 - 図5-1及び5-2：食材は、多くの方がスーパーなどで流通しているものや、地元産であっても検査を経たものを摂取されており、未検査の食品の摂取を続けている方は少ない状況です。
 - 図6-1及び6-2：ホールボディカウンター検診への受診率は、一時、低下傾向でしたが、学校検診導入後、受診者数は再び増加してきました。しかしながら、20代及び30代の方の受診率は低い状況が続いています。
 - 図7：多くの方が、検査継続をご希望されていることが判りました。相馬市では、市民の健康を守るために、今後もホールボディカウンターでの測定業務を続けていきますので、自分の健康を守るために積極的に受診するようにしてください。

【結果の総括】

平成25年4月1日から平成26年1月31日までの内部被ばく検査集計をご報告いたします。

検査月別のセシウム検出率は、大人は低下傾向、子供も非常に低い状況を維持しています。国の定める1mSv/年の被ばく量に比べ、2桁以上低い値を維持しており、今現在の相馬市での生活を続ける上での慢性的な内部被ばくが非常に低く抑えられていることを示しています。

産地を選ばずとも、流通している食品の汚染度が抑えられており、スーパーでの食品の購入、地元産の検査済みの食品・水道水について安全性が十分に高いことが内部被ばく検査からも裏付けられると考えられます。

内部被ばくの値、セシウムの検出率は、低い状況を維持しておりますが、今後も継続的な検査や食品検査の徹底いたします。

市では、各種放射線検査の拡充、食品検査結果の迅速な公表・注意喚起に努めるとともに、継続的な検査、健康フォローの強化を行っていきたいと考えております。

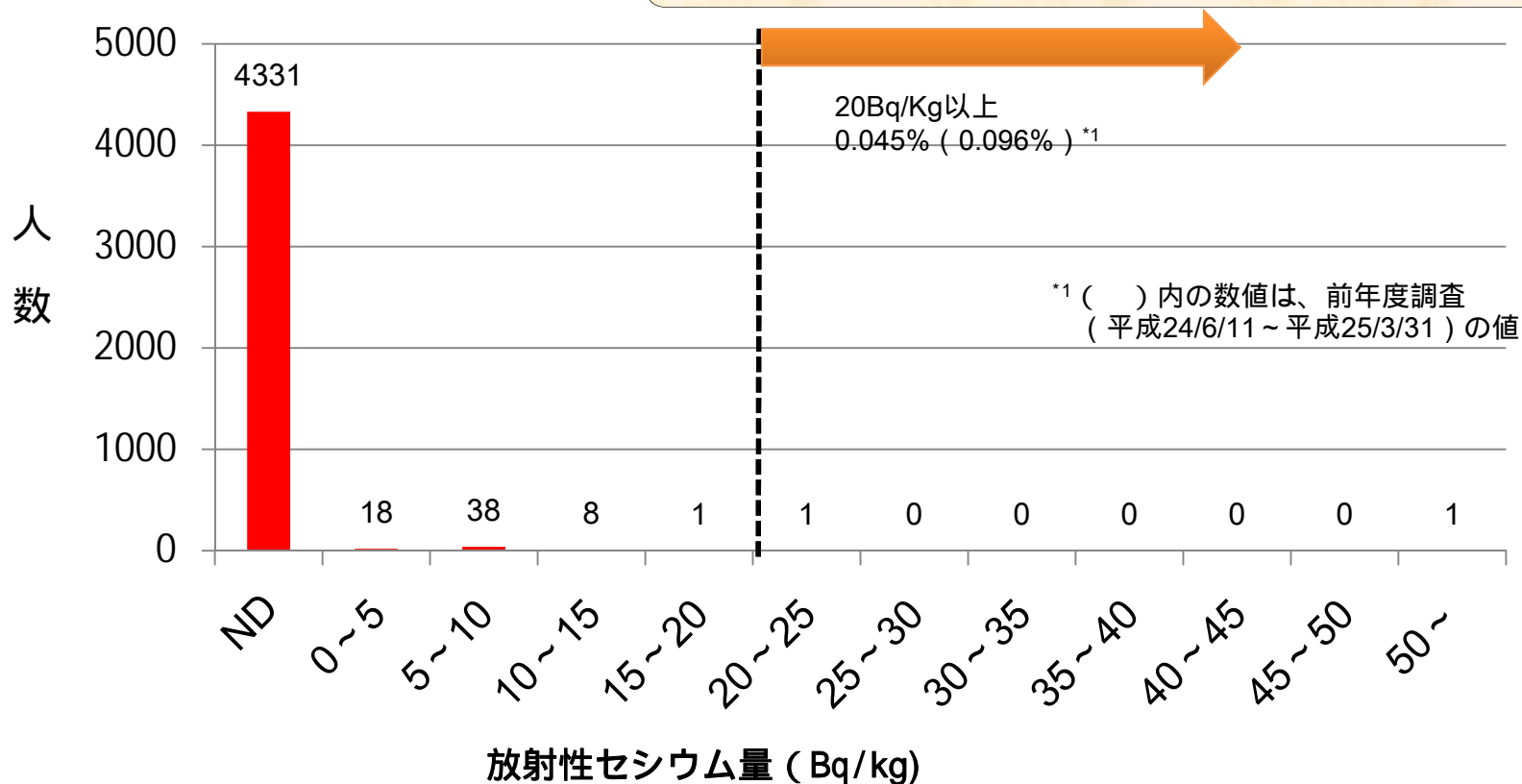
相馬市長 立 谷 秀 清

図1-1

セシウム137の体内放射能量別の被験者数

通期：H25/4/1～H26/1/31 (n=4,398) 大人(高校生以上)

- ・受診者人のうち未検出(ND)の方は、4,331人(98.5%)で前年度の95.8%に比較し増加しました。
- ・20Bq/kg以上検出した大人は、2名、0.045%(前年度0.096%)でした。



放射性セシウム量 (Bq/kg)	ND	0~5	5~10	10~15	15~20	20~25	25~30	30~35	35~40	40~45	45~50	50~
人数	4,331人	18人	38人	8人	1人	1人	0	0	0	0	0	1人
割合 (%)	98.5%	0.4%	0.9%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

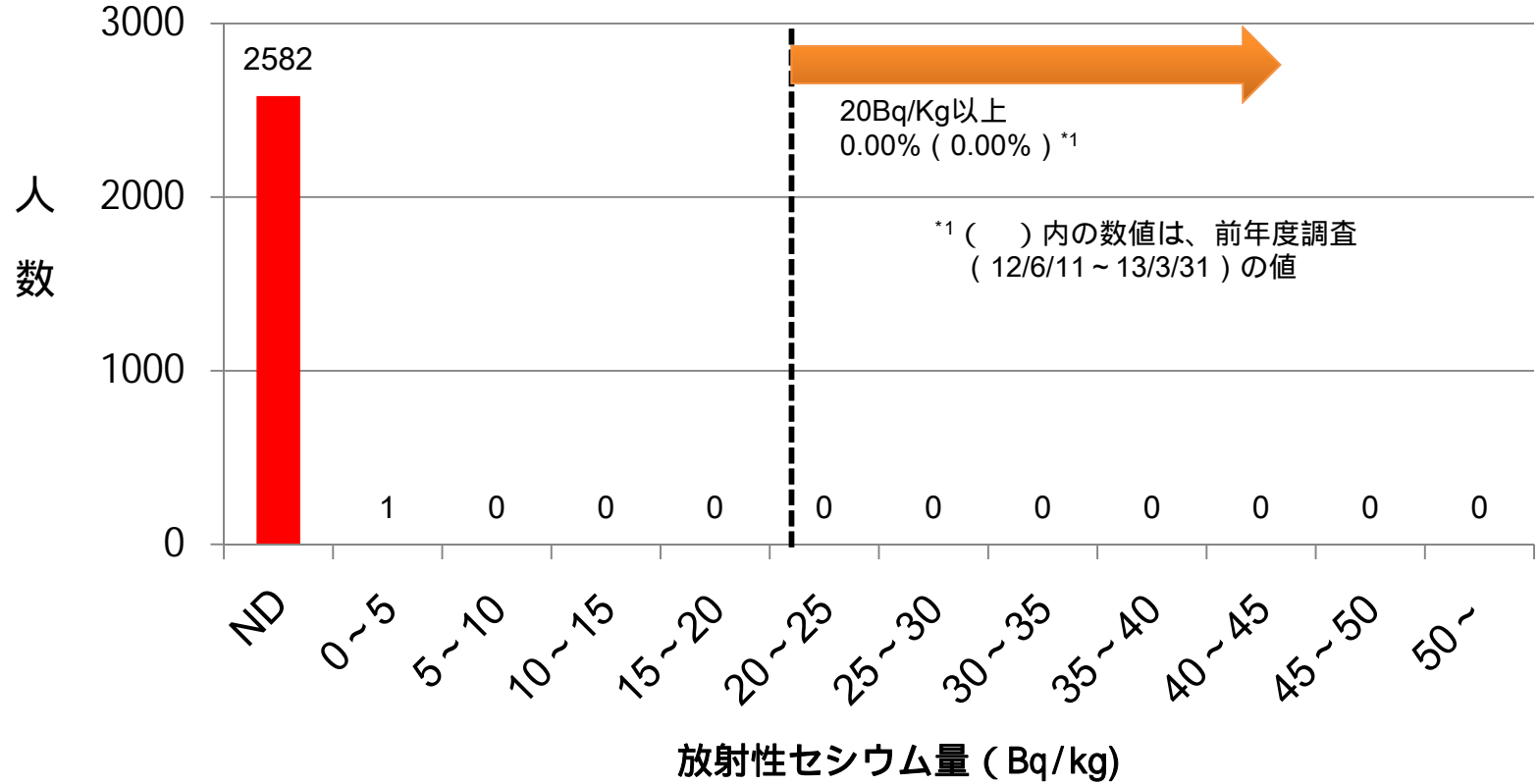
検出限界は、250Bq/bodyです。体60Kgの方で、4Bq/Kg程度になります。

図1-2

セシウム137の体内放射エネルギー別の被験者数

通期：H25/4/1～H26/1/31（n=2,583） 子供(中学生以下)

・受診者人のうち未検出(ND)の方は、2,582人（100.0%）で、20Bq/kg以上検出した子供は、0名、0.0%（前年度0.0%）でした。
 ・今回の結果には、平成25年9月から12月まで行われた学校検診も含まれています。



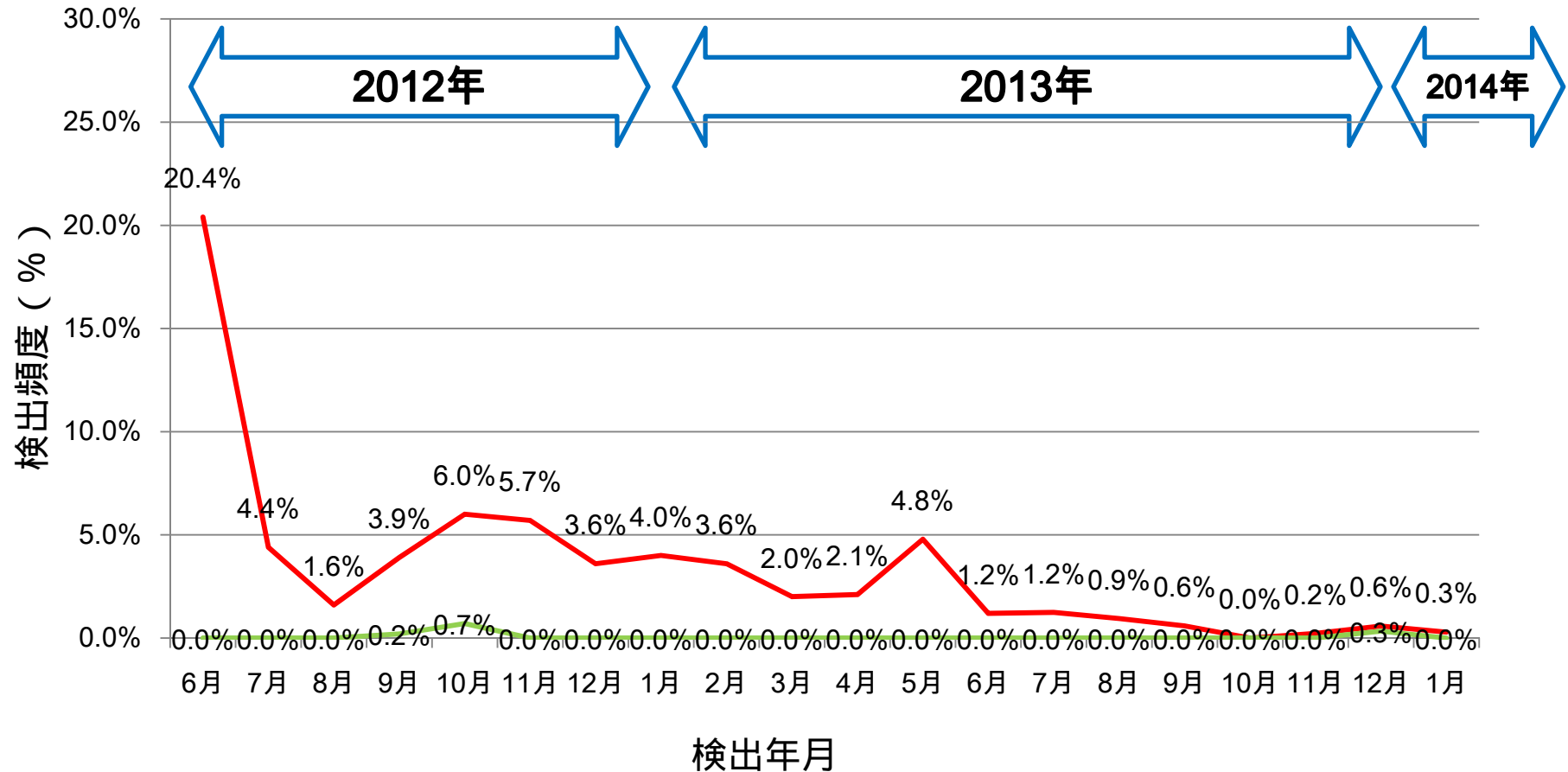
ND	0～5	5～10	10～15	15～20	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50	50～
2,582人	1人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

検出限界は、250Bq/bodyです。体重60Kgの方で、4Bq/Kg程度になります。

図2

月別セシウムの検出率の推移

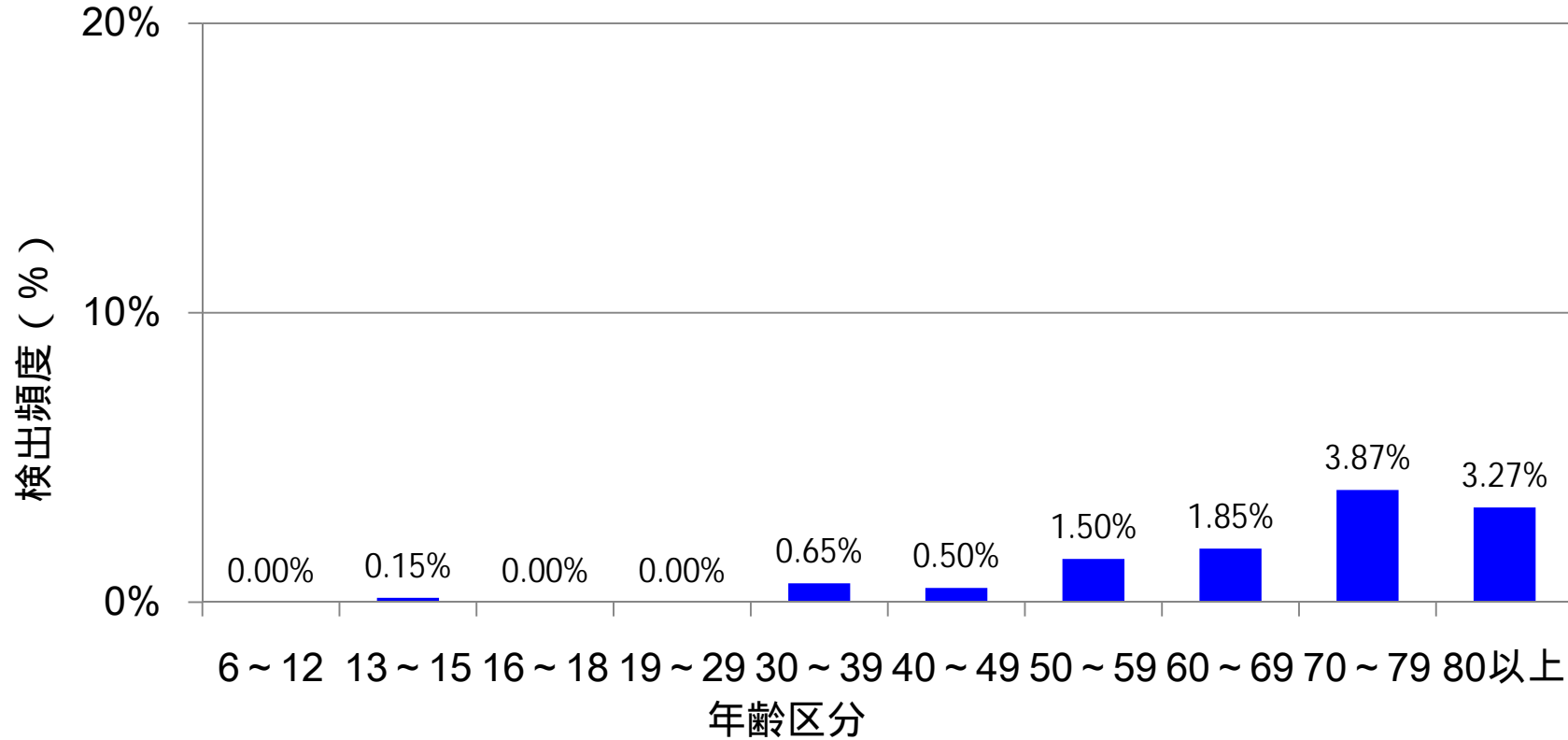
平成24年6月～平成26年1月



※検出率は、セシウム134またはセシウム137のいずれか、または両方が検出限界以上の場合を「検出」と定義しています。
※大人は、高校生以上、小児は中学生以下と定義しています。

図3-1

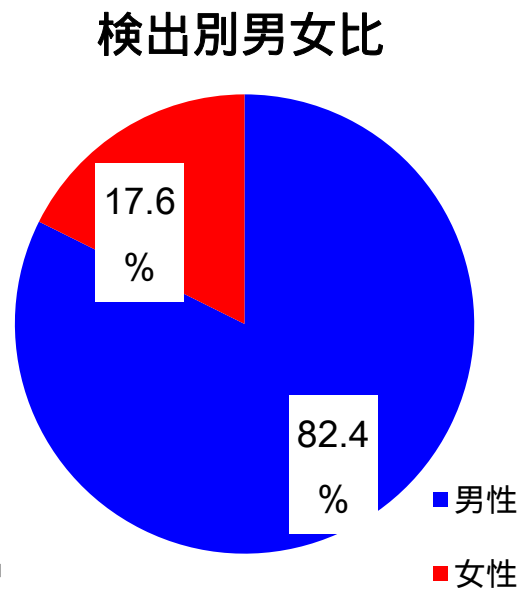
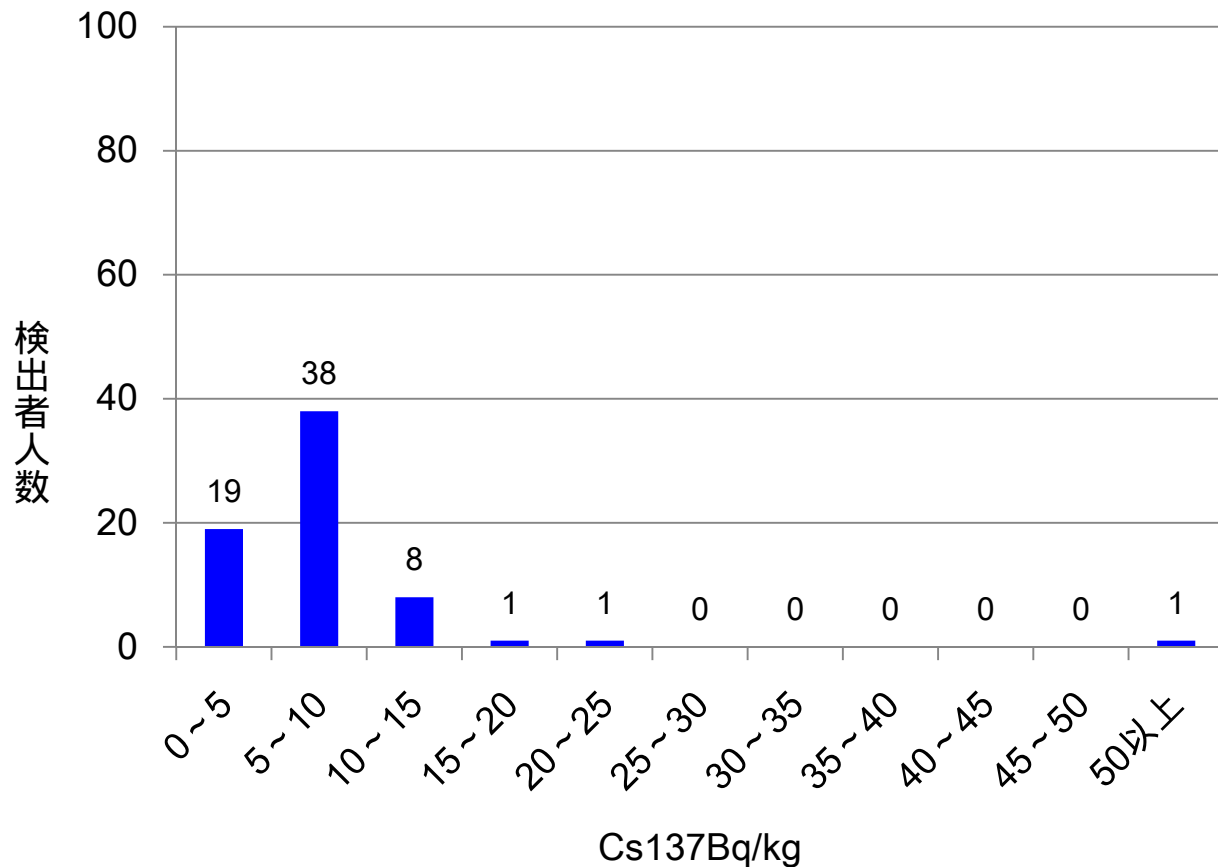
セシウム137 年齢別検出割合 : n=6,981



年齢区分 (歳)	6~12	13~15	16~18	19~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80以上
検出数 (人)	0	1	0	0	4	3	9	19	26	7

図3-2

セシウム137 検出者詳細 : n=6,981

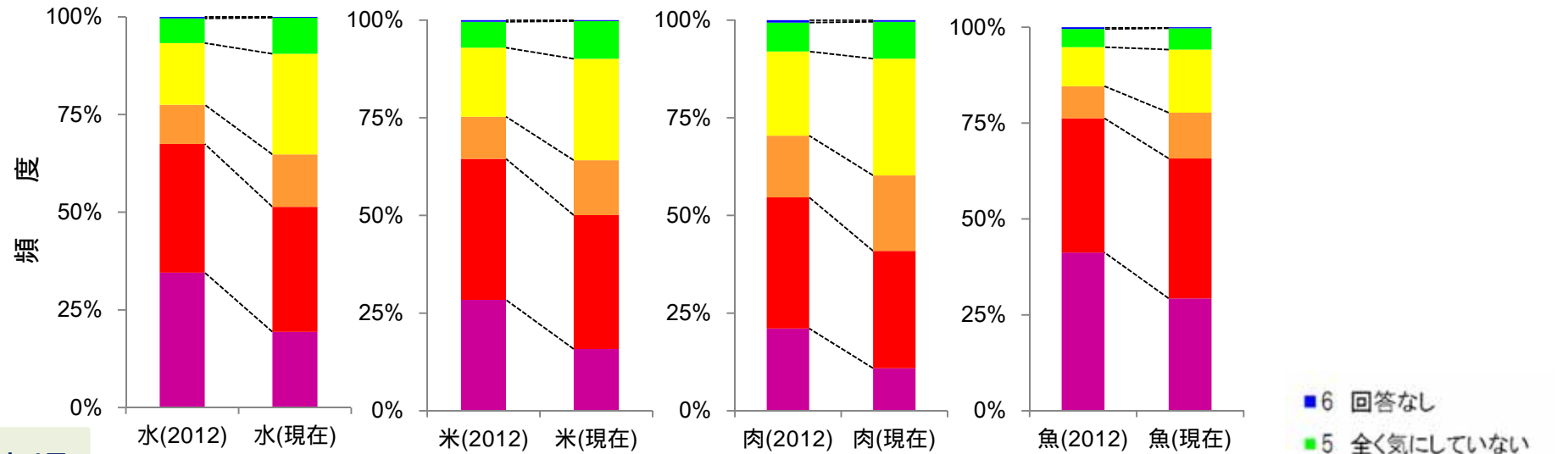


Cs137Bq/kg	0~5	5~10	10~15	15~20	20~25	25~30	30~35	35~40	40~45	45~50	50以上
検出人数 (人)	19	38	8	1	1	0	0	0	0	0	1

図4-1

大人

内部被ばくの原因として気になる食材



小児

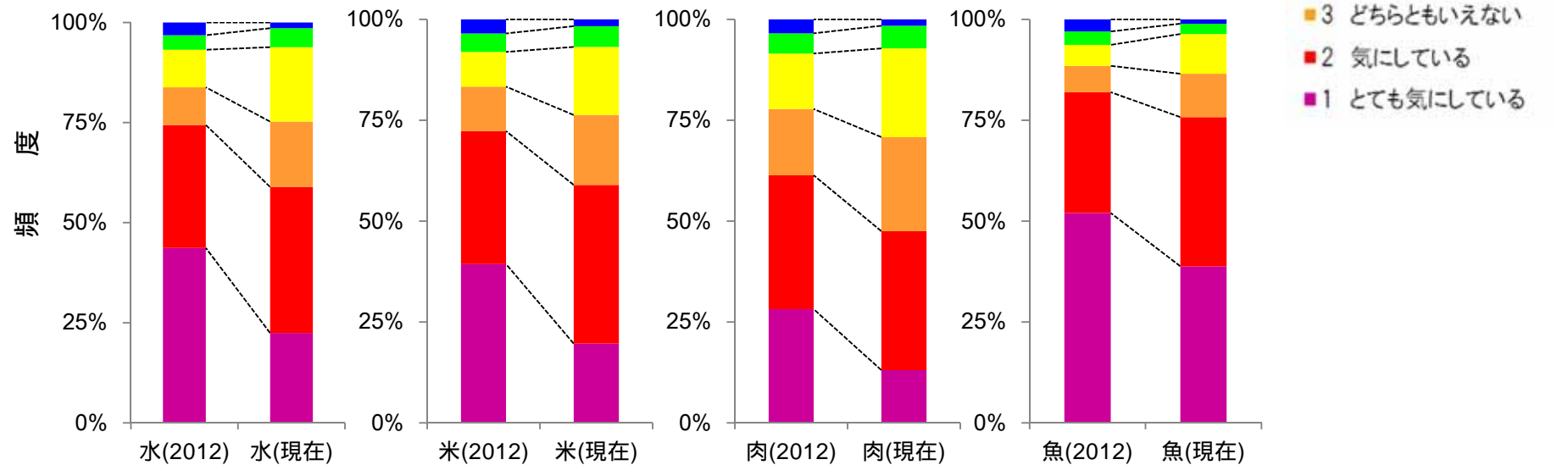
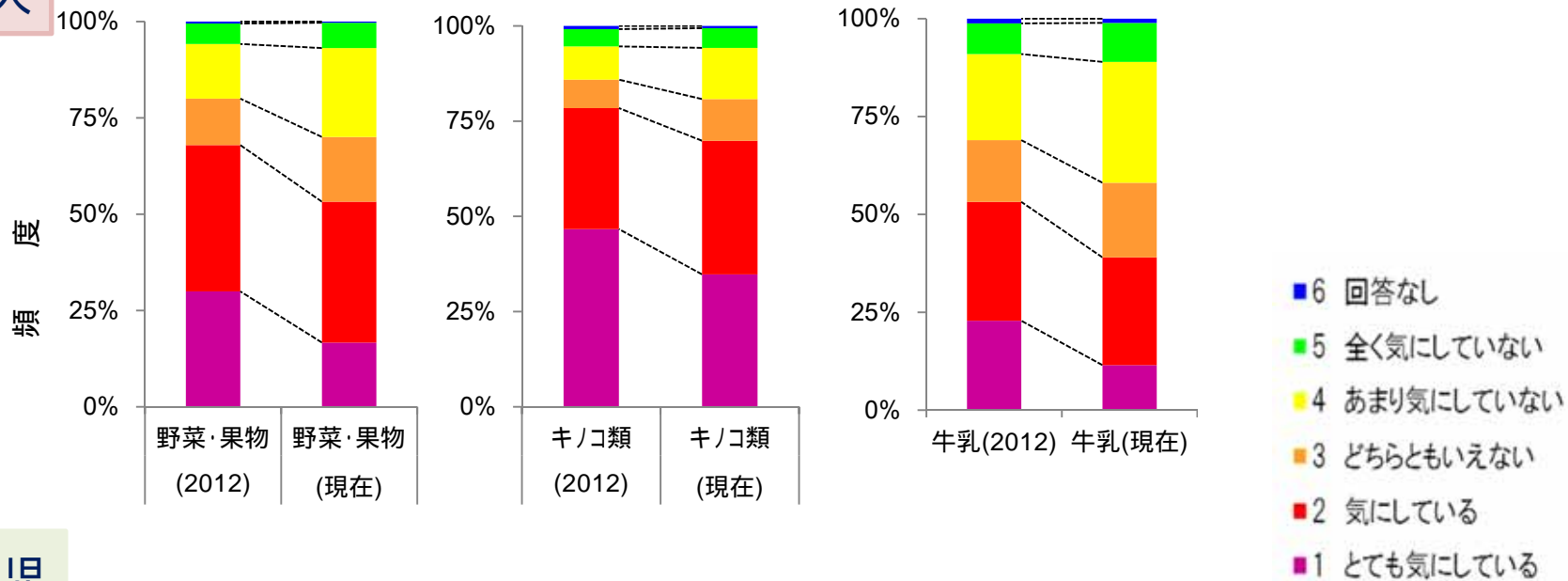


図4-2

内部被ばくの原因として気になる食材

大人



小児

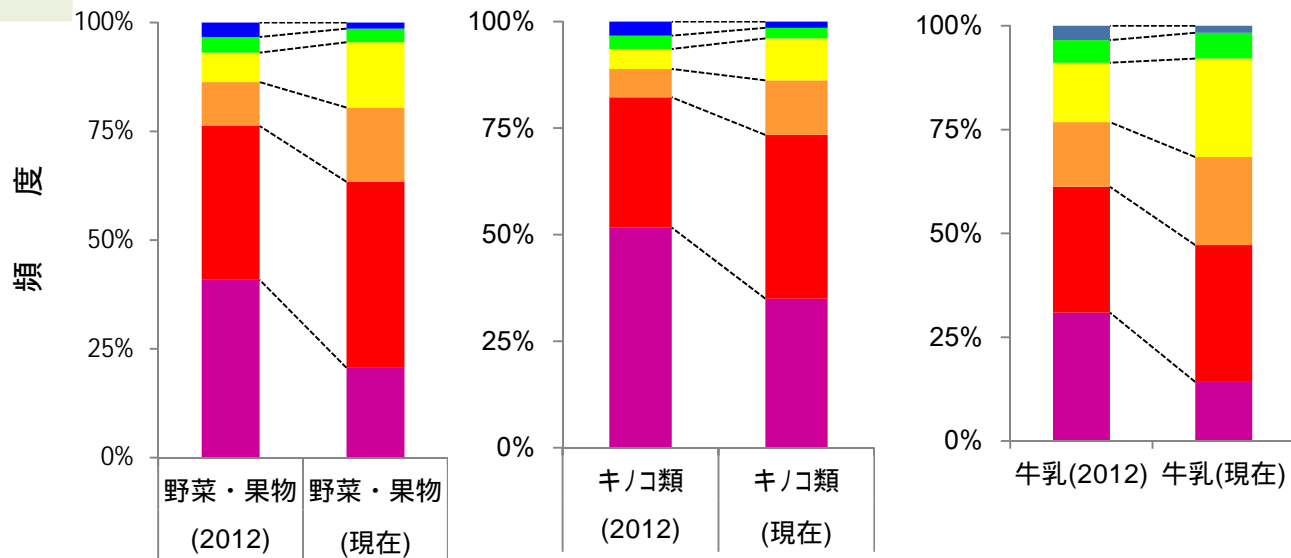
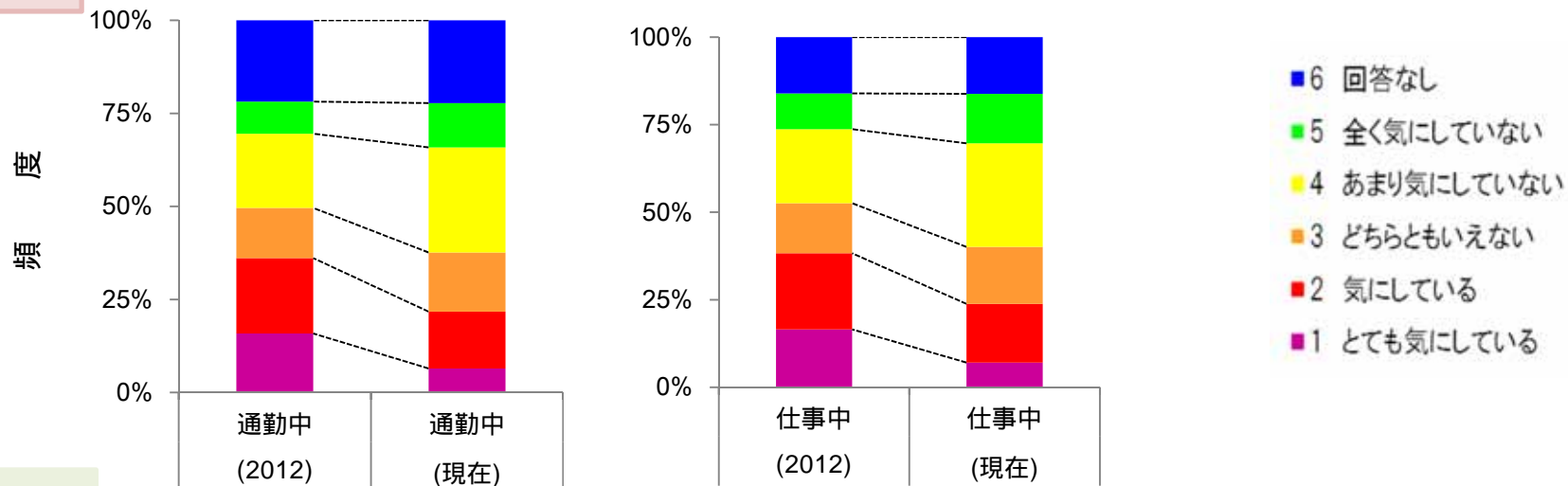


図4-3

塵やほこりの吸入について

大人

通勤をしている方のみ対象としています。



小児

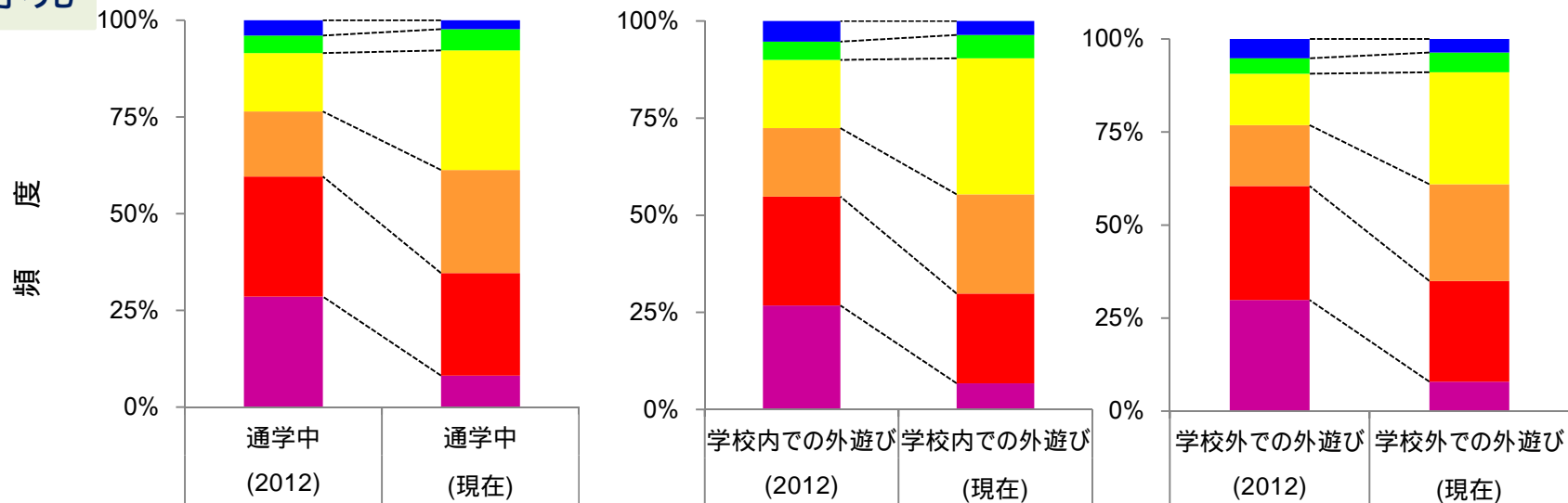


図5-1

食べ物の調達方法

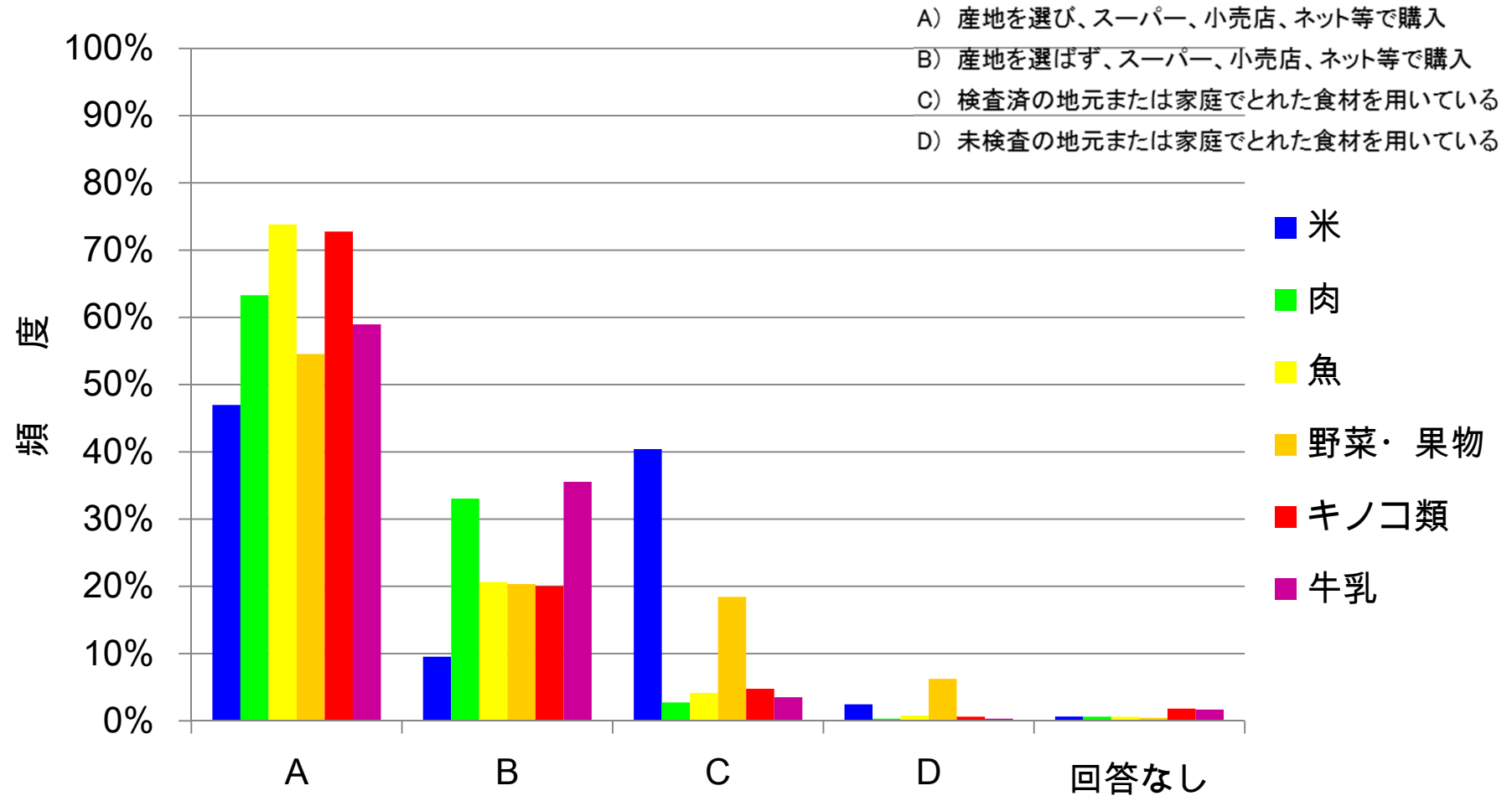


図5-2

自宅の飲料&調理水の種類

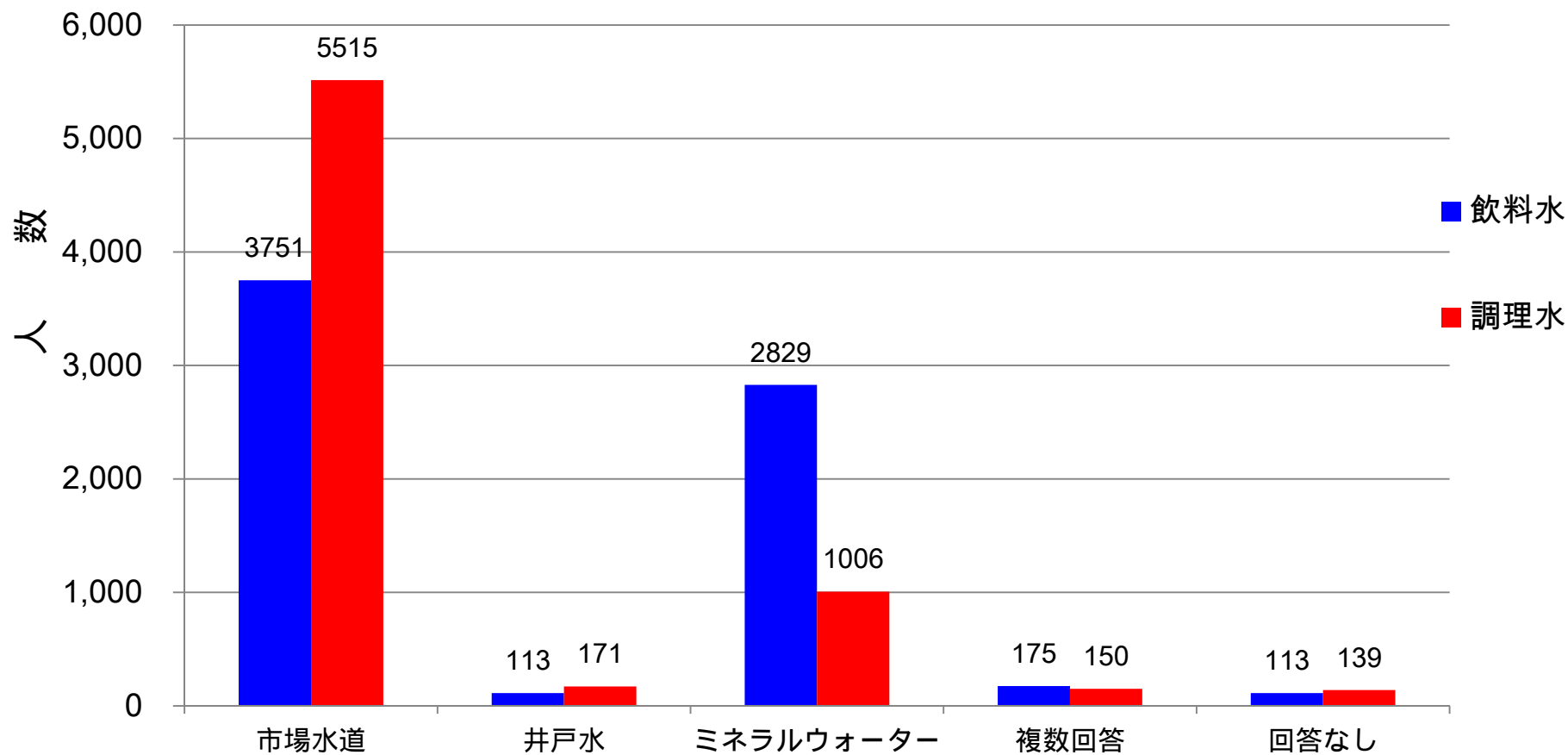


図6-1

月別受診者数の推移 平成25年4月～平成26年1月

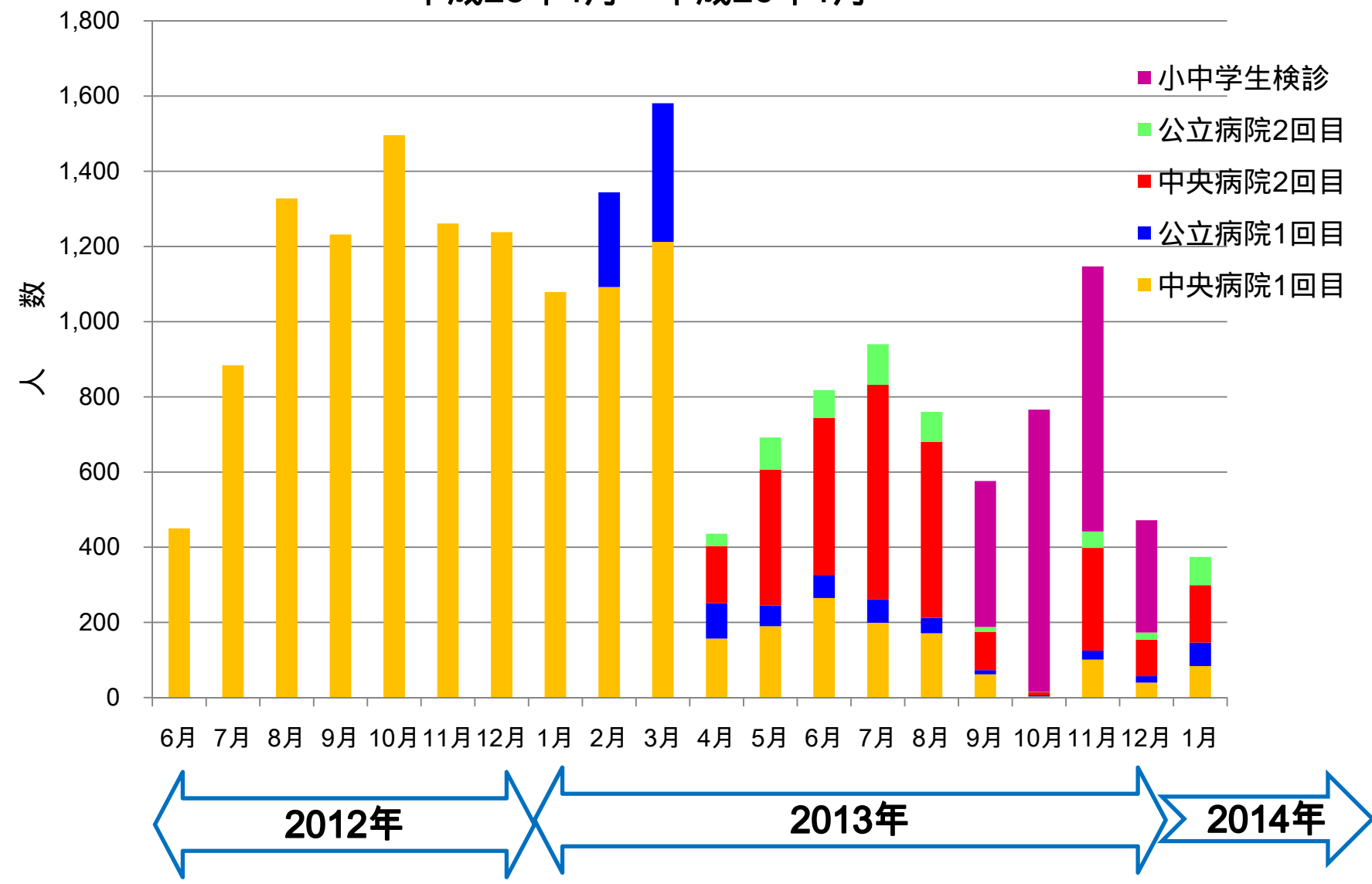
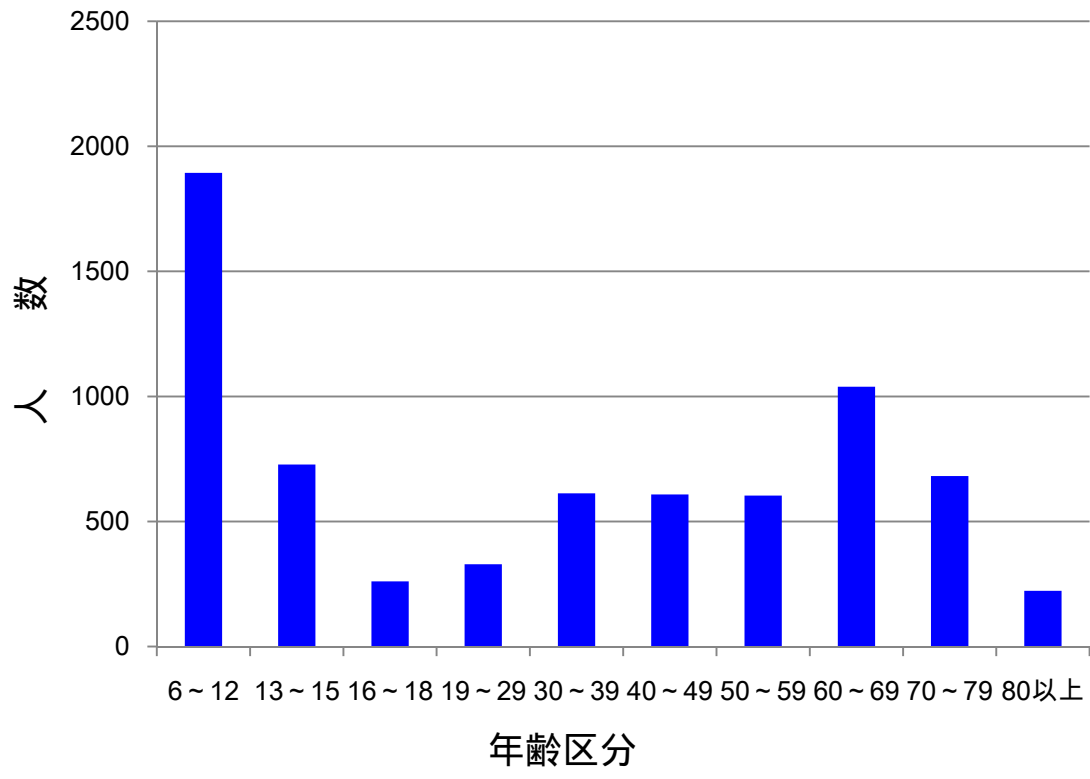


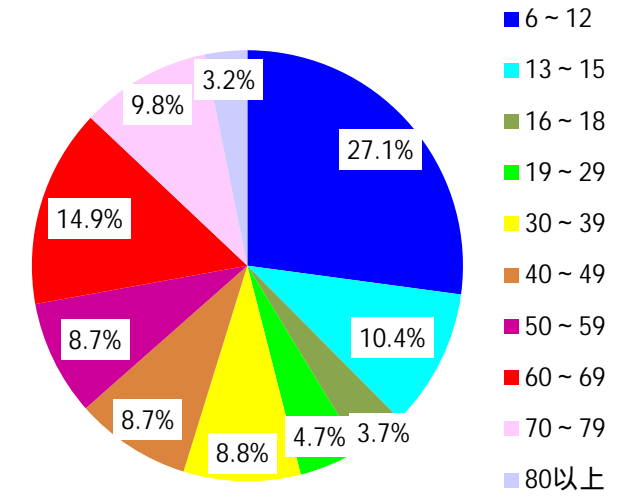
図6-2

年齢別受診者数の推移 平成25年4月～平成26年1月

年齢別受診者数 n=6,981



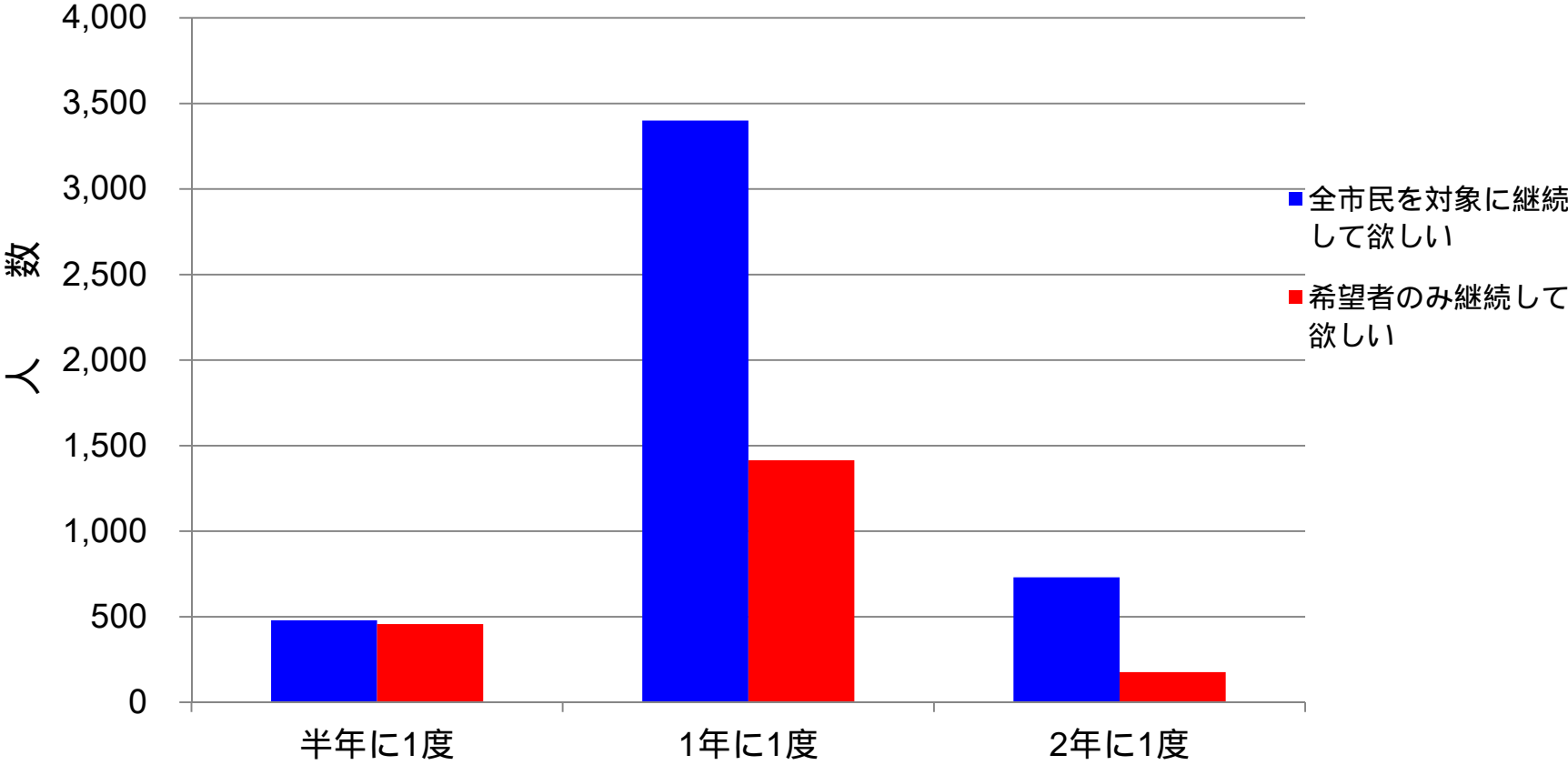
年齢別受診者数割合



年齢区分 (歳)	6~12	13~15	16~18	19~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80以上
受診者数 (人)	1,894	728	261	329	613	608	604	1,039	682	223

図7

今後のWBC検診について



不要である	73
無回答	251